

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をなくす人権尊重の精神を養い、一人一人が互いに認め合い、助け合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「やさしく さとく たくましく 共に輝く大みかっ子の育成」を教育目標として掲げている。学校教育全体を通して人権尊重の精神を高め、差別や偏見をもたずに誰に対しても公平にふるまう生活態度を育てるため学校を挙げて取り組んでいる。また、各教科・道徳・特別活動等の特質に応じた教育活動全体を通して、人権が尊重され安心して過ごせる学校・教室を目指し、地域の教育力の活用や体験的な活動の導入、学習形態の工夫に努めている。

本校の児童は、明るく素直であり、思いやりのある言動が多く見られる。しかし、自己中心的な行動や他者の考えや気持ちを受け入れられず思いやりに欠けた言動をする児童もいる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人が互いを認め合い、思いやりの心をもって助け合うことのできる児童の育成を図るため本主題として設定した。

(2) 研究の内容

ア 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

イ 豊かな体験活動の展開

2 実践内容

(1) 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

ア 道徳の授業の公開と情報モラル研修会

学校公開日に、全クラスで道徳の授業を公開している。担任は児童の心を豊かにするため、実態に応じた題材を設定し、よりよい授業展開の工夫を図っている。保護者が参観することで、児童への担任の思いや考えを共感し合うことができる。また、高学年と保護者が参加した情報モラル研修会も行った。インターネットによる人権侵害等の事例をもとに、どう行動すればよいのか親子で学習した。保護者のための研修会では、「スマホを持たせるための約束事をしっかり決めたい」と我が子がインターネットによる被害に巻き込まれないようにと願う保護者の声を聞くことができた。

イ 特別活動や外国語活動、総合的な学習の時間等の実践

(ア)「レッツ トライ ボランティア」(4年生)

高齢者や体の不自由な人の生活について学び、「自分たちができるボランティアは何か」を考えた。そして、手話の紹介や点字の絵本作り、ワクチンを求める費用となるペットボトルのキャップ集め等、様々な学習活動に取り組んだ。

(イ) 外国語活動

全学年で行っている外国語活動では、外国語の学習を通して、その言葉や文化について体験的に理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てている。

ウ 帰りの会での友達への称賛

帰りの会では、各学年が実態に応じ、「ハッピーニュース」など、友達の良かったところや頑張ったところを発表する時間を設定している。

エ 全校集会

「1年生を迎える集会」「4年生を励ます会」「6年生激励会」等の集会活動を通して、相手の頑張りを励まし合ったり、互いに仲良くしたりして、児童同士の相互理解が深まった。



オ 異学年集団との交流（縦割り遊び・縦割り清掃）

毎月第3木曜日のロングの昼休みを利用し縦割り遊びを実施している。6年生を中心に、異学年のメンバーが仲よく活動する姿が見られた。上級生も下級生も互いによい影響を与えている。

カ あいさつ運動

全学年であいさつ運動に取り組んだり、本校卒業の泉丘中学校生徒と共に活動したりした。あいさつ運動を通して、気持ちのよいあいさつへの関心は高まっている。

キ 募金活動

全学年で、赤い羽根共同募金活動に取り組んだ。今年度も、自分たちの住む町のために多くの募金が集まった。

(2) 豊かな体験活動の展開

ア 読書郵便

10月に実施している校内読書週間では、友達に読んだ本を紹介する読書郵便という活動を行っている。自分がお勧めの本を「はがき」という郵便に託して、友達に当てて紹介する活動である。送る相手のことを考えたり手紙をもらって喜んだりして、児童にとって楽しみなうれしい活動となっている。

イ 大みか交流センター敬老会

毎年9月に行われている大みか交流センター敬老会では、3年生の児童が参加し、音楽の発表を行って地域の方と交流している。児童が書いた地域の方々に贈る手紙も、地域の方にたいへん喜ばれた。

ウ 「人権の花」運動の実施と愛校作業

本年度は指定を受け「人権の花」運動に取り組んだ。毎月1回の愛交作業（花壇除草）では、各学年で学年花壇に花の苗の植え付け、除草作業等を行った。また、たくさん育った苗の一部は、コミュニティセンターに寄贈した。さらに、委員会児童が「人権の花」の作文に進んで参加した。これらの花を育てる活動は児童の情操教育に大きな効果があった。



3 成果

様々な活動を通して、児童は自分の大切さと他の人の大切さについて学ぶことができた。特に、異学年や地域の人々との交流、外部講師による講話等は、他者のことを考えるよい機会となった。

II 今後の課題

- ・人権について考える場や体験活動を更に充実させて、自己や他者を大切にする人権感覚を育て、日々の学校生活の中で実践できる児童の育成を図っていきたい。
- ・家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域が一体となり人権教育に取り組めるように努めたい。

III 人権コーナー設置の様子

「あったか♡をつたえよう」（低学年）、「伝え合いの木」（高学年）、「ふわふわの木」（支援学級）

